

# 印刷革命：第2章：拡散と標準化

Elizabeth Eisenstein, *The Printing Press as an Agent of Change*

2011年度前期

鈴木繁夫

# 広範囲の拡散を検討する：書籍量の増大と変質した受容

- 書籍量の増大は拡散というよりも相互増殖と相互文化交流
- なぜなら増大によって、一読者のもとに複数のテキストが集められ、相互比較参照することができるようになる。
  - (1)同一タイトルの複数の書物が相互比較参照される:
  - (2)複数のタイトルの複数の書物が相互比較参照される:ガレノスとアラビアのテキスト

# 新思考法

- 従来の読書スタイル:一つの書物内の相互参照とコメント←【バルトールス・デ・サクソフェラートは複数の写本を利用していたし、また他の書物との相互参照を行っていた】
- (1)の成果:カードはたとえ古くても、手持ちのカード数が増えるので、順列組み合わせの可能性が広がる。
- (2)の成果:新旧のカードが混じって、思想の新システムが誕生する。

# 拡散の例

- 本の出版：植字工、修正工、翻訳者、装丁者、装飾家、索引家の共同作業。
  - 本の編集：印刷者が最初の読者。印刷所内の図書館が編集に不可欠。→印刷所は学術の揺籃所。
- 基本的に拡散したのは、
  - (3)手引き書、カテキズム、カレンダー、宗教文学→単細胞な狭窄視野の敬虔
  - (4)実践的なガイドブックやマニュアル→日常知への関心→不正確な知識
  - (5)中世の知が印刷物として出回る
- これらに、(1)と(2)が加わり、広範囲で焦点の定まらない学識が進む。
- 
- 誤解：「知の拡散をあまり強調するのではなく、知の標準化に注目すべきである」(Sarton)

# 真理に迫る手段

- 神秘主義の新たな形:
- アダムの墮落以前に語られた真理を書き留めた原・書籍があるという確信
  - ヘルメス文書
  - 結果として不正確な知識の拡散。

# 標準化による効用

- 正誤表の発表ができるようになる→本文校訂に正確さの要求。ばらばらに存在する読者への情報共有の可能性。
- ただし筆耕の誤りと同種の印刷屋の誤りはそのまま残り、誤りの共有も起こった。
- 
- 標準化を促進する要素：
  - (1)同一タイプの活字と組版
  - (2)社章、表紙装飾
  - (3)パタン本の登場→以前よりも個人の癖が明瞭になる

# データの標準化

- 配列はアルファベット順
  - 13世紀以前は一般化していなかった→個人が記憶しやすい方式
  - 廉価な紙、本の活発な売買→標準の分類
  - **Johannes Trithemius** (1462 –1516) ベネディクト会司教  
『ドイツ著名人一覧』*catalogus illustrium virorum Germaniae*
    - *Steganographia* (written c.1499; published [Frankfurt](#), 1606, placed on the [Index Librorum Prohibitorum](#) in 1609)
    - *De Laude Scriptorum* ( (written 1492, printed 1494),
  - Conrad Gesner ***Bibliotheca universalis*** (in four volumes, 1545–49)
- Encyclopedism (言語解釈学を基礎とした博覧強記)
- 庇護者は教会・富豪でなく出版者。

BIBLIOTHECAE Italicae, Graecis libris instructae, quarum  
catalogos habui, aut ipse inspexi, hae sunt.

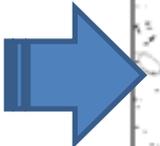
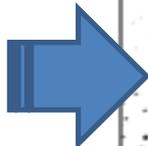
Romae, Vaticana siue Pontificia. Florentiae, Medicum.  
Bononiae, S. Saluatoris.  
Venicis, Bessarionis: SS. Ioannis & Pauli, & aliae quaedam.  
Illustrissimi Diegi Hurtadi à Mēdozza Cēsarei oratoris apud Venetos.

Libri, ex quibus sparsim quaedam decerpsi.



Raphaëlis Volaterrani Anthropologia.  
Bernardinus Rutilius de vitis iuriconsultorum ueterum.  
Io. Fichardus de vitis iuriconsultorum, qui post annū Dñi, 1190. claruerūt.  
Petrus Crinitus de poetis Latinis.  
Lilij Gregorij Gyraldi historia poetarū dialogis decem doctissimis conscripta, & nuper edita Basileae.  
Symphorianus Campegius, de scriptoribus medicinae: & alij quidam.

Catalogi scriptorum, quos integros inseruimus nostro,



Hieronymus de scriptoribus ecclesiasticis, & Gennadius de hisdem. Si  
quae tamen prolixius apud hosce dicta, & magis ad uitā quam libros  
eorum pertinere uidebantur, non semper addidimus, Lectore ad ip-  
sos remisso.  
Io. Fichardi indices duo omnium scriptorū in iure tam pontificio quam  
ciuili a ueteribus & recentioribus iuriconsultis ad nostra usq; tempo-  
ra anni, 1335. editorum.  
Io. Tritemij catalogus ecclesiasticorum scriptorum, siue illustrium uiro-  
rum, tertio ab auctore auctus & recognitus, & toto septennio conge-  
stus, usq; ad annum Domini, 1494.

# *Pandectarum sive Partitionum uniuersalium.* Tiguri: Christophorus Froschouerus, 1548

29,339点の書物

Liber I : Grammatica, titlus I-XXI. Christoph Froschauer, Zurich, with catalogue.

Liber II: Dialectica, titulus I-XII. Johannes Bebel & Michael Isengrin, Basel.

Liber III: Rhetorica, titlus I-XI. Johann Oporin, Basel.

Liber IV: De poetica, titlus I-VIII. Nicholas Brylinger, Basel.

Liber V: De arithmetica, titlus I-IV. Robert Estienne, Paris.

Liber VI: De geometria, titlus I-V. Johann Petri, Basel.

Liber VII: De musica, titlus I-VII. Heinrich Petri, Basel.

Liber VIII: De astronomia, titlus I-VIII. Hieronymus Curione, Basel.

Liber IX: De astrolgia, titlus I-VI. Johannes Montano et Ulrich Neuber, Nurnberg.

Liber X : De divinatione cum licita cum illicita, & Magia, titlus I-XI. Wendelin Rihel, Strassburg.

Liber XI: De geographia, titlus I-VIII. Paolo Manuzio, Venezia, with catalogue.

Liber XII: De historiis, titlus I-XV. Sebastian Gryphis, Lyon, with catalogue.

Liber XIII: De diversis artibus, mechanicis, & alijs humanae uitae utilibus, titlus I-XIII. Christian Wechel, Paris, with catalogue.

Liber XIV: De naturali philosophia, titlus I-XII. Johann Hervagen, Basel.

Liber XV; De prima philosophia (quam uulgo metaphisycam uocant) & theologia gentilium. Johann Gymnich, Koln, with catalogue.

Liber XVI: De morali philosophia, titlus I-XXXIII. Johann Frellon, Lyon, with catalogue.

Liber XVII: De oeconomica philosophia, titlus I-IX. Vincentius Valgrisius, Venezia.

Liber XVIII: De politica, titlus I-XVIII. Hieronymus Scotus, Venezia.

Liber XIX: De iure civili & pontificio, titlus I-XXIII, Index I-III. Tommaso Giunta & memories of Lucantonio Giunta, Venezia.

# Encyclopedism

- 二種類の知識の雑居
  - (1)一般に流布している世界知識 (ta encyclia アリストテレス『ニコマコス倫理』1096a)あるいはこの世で有益な学芸(フィロー)
    - 「単なるものごとへの知識を空虚に求める」(ペトラルカ “the vain search for knowledge about mere things”)
  - (2) 真の知識→人間の本質にかかわる

# 規格化の恩恵

- 転記しつつ編集という作業をするようになる→中立的態度：政治や歴史を道徳化して捉えない
- 知識の配列への配慮→内的統一性と調和
- ラムス主義による＜創意＞[例 因果]と＜判断＞[例 理性的推論]による分類
- 教育効果を上げるため
  - (1)年代順表記
  - (2)人物史として関連を持たせる

# 断片化から規格化へ

- 知の断片化状況にあった法学→1553年:ローマ法『学説彙纂』出版→本全体の中で部分の解釈が可能になる。
- 地域法レベルでは、印刷される王の勅令と公証人によって書かれる私文書との区別が明瞭になる。→勅令は閲覧・相互参照可能になる。
- John Rastell, *Magnum Abbreviamentum Statutorum Anglie*.
  - →Andrew Maunsell *Catalogue of English printed Bookes* (1595)→タイトルページ、年代順の配列、目次、ページ打ち、句読点、段落分け、見出し、索引(完全アルファベット順)

# 良質化

- 聖書はエティエンヌ、地図はオルテリウスと  
いったように出版者が専門家していく→良質  
化
  - ただし初期はむしろ悪化した。
- 読者・他の出版者・著者自身からの情報に  
よって修正を加える。Benevolo Lectoriを通じ  
て謝辞。
- 出版者が正直で協力的になった理由：  
**活字タイプの画一化**

# 印刷の保存力(1)

- 写本は写本そのものの保存に限界があった  
→紙にも耐用年数がある
- 大量印刷
  - →副産物として
    - 各国語の固定化
    - 法律の固定化
    - 印刷物の利権化

# 印刷の保存力(2)

- 個人の書いたものが印刷される→印刷による不死の獲得
- 過去の業績の固定化
  - 着実な前進:特に自然科学領域
  - 簡潔な言葉、数字、図表、地図による表現

# 増幅と強化

- 印刷術は、過去のメッセージを増幅させ強化する
- →定型概念・決まり文句の誕生
- 
- 異なった著者による同じ出来事の記述
- →読者は同じ出来事の記述を異なった著者の作品から読む
- →出来事の固定化
- 例「旅人よ、行きて伝えよ、ラケダイモンの人々に。我等かのことばに従いてここに伏すと」(テルモピュライの戦いBC 480年)
- 公的伝承(教会史・都市史・王家史)の印刷と共に、地域の口承も印刷され、歴史が増幅する。

# 聴く皆衆から読む大衆

- 皆衆(顔の見える大きな地域共同体)は本当にあったのか？
  - <聞く皆衆>には、同じ情報でもその場で共有されるだけの一回性
- 読む大衆には、同じ情報が広範囲に拡散し、知らない人間同士の間で非人格的な絆ができる。
  - 出版の対象として、家族も男女、年齢、階層などによって分断されていく。

# 印刷書籍によって不可視につながる 連帯

- 知識人が形成する印刷本共同体：
  - 18世紀の中心地はアムステルダム
- 宗教に寛容であるが世俗的でない。敬虔だが熱狂主義ではない。
- 印刷業者は秘密結社に所属していた。  
例プランタン(「愛の家族」)、
- 書籍市は結社の情報交換の場。

# 名声獲得方向の変化

- 官僚から著述業→文人の誕生
- 影響
- (1)読者が思想や感性を持つことが、孤独感・地域社会からの圧殺・伝統的権威への追従から自由になる。
- (2)読者が代理経験を持てるようになる
- (3)読者の想像力と抽象能力(タイプ化する能力)があがる。  
→経験知の軽視
- (4)知識人の誕生→印刷所で著述・印刷・販売に関わるマルチ人間。
- (5)過去の蓄積が厚くなり、現在に対する論評も増える
- (6)著述家の側の不安:注意を引きつけ人気を維持する